

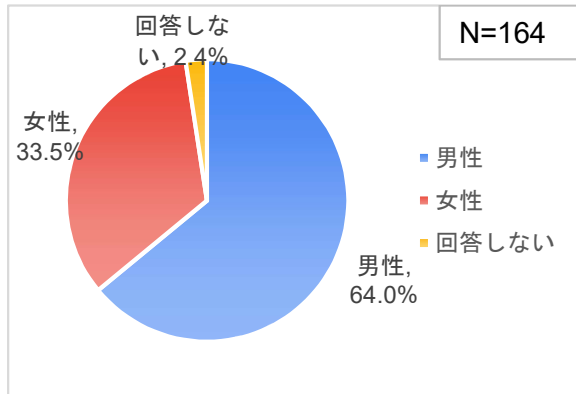
文化芸術に関するアンケート(個人向け)

アンケート実施期間 2025/12/15～2026/1/9

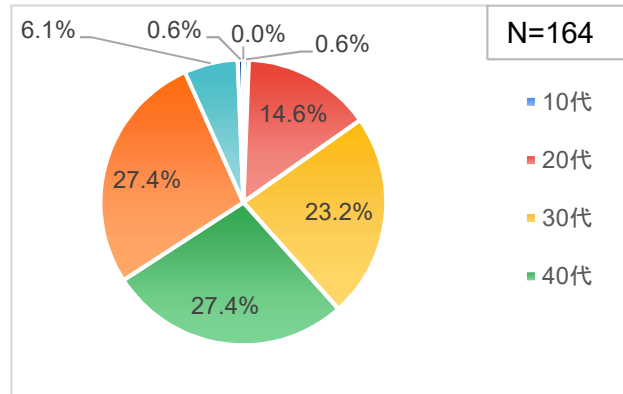
回答数 164件

問1 あなたについてお聞きします。

(1) 性別



(2) 年代

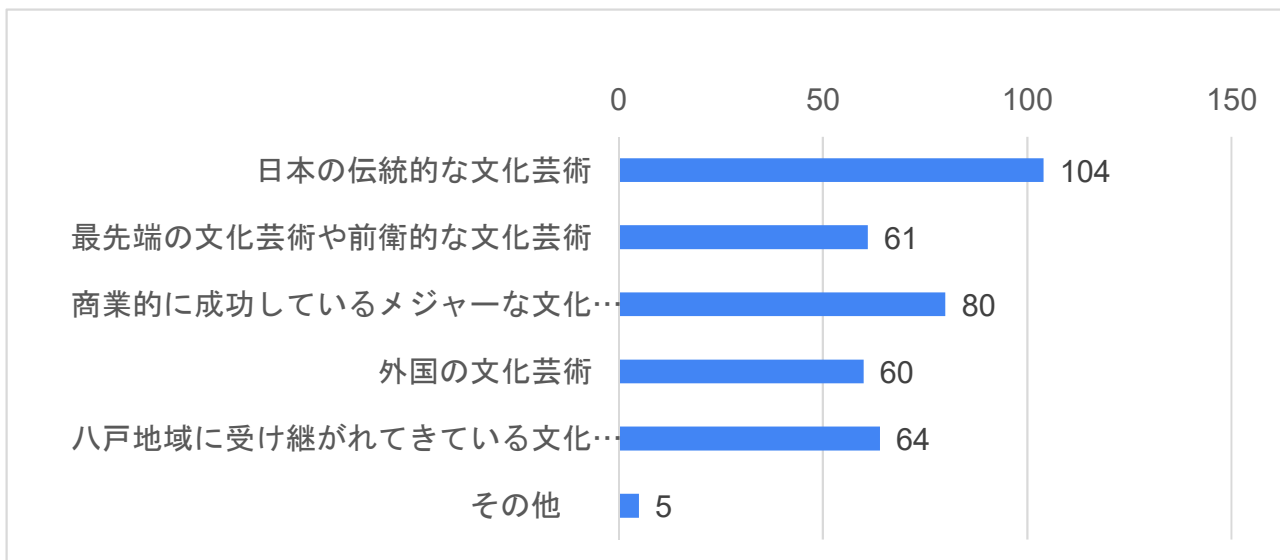


問1 (1) 性別 (2) 年代別

回答者は男性が約6割、女性が約3割を占めており、男性の割合がやや高い構成となっている。文化施設利用者等を対象とした調査であることから、日常的に文化芸術活動や鑑賞に関わる層の属性が反映されていると考えられる。

回答者は30代～50代が全体の約8割を占めており、文化施設を日常的に利用し、かつスマートフォンやインターネットによる回答に抵抗の少ない現役世代を中心とした構成となっている。

(3) どのような分野の文化芸術に興味・関心がありますか？

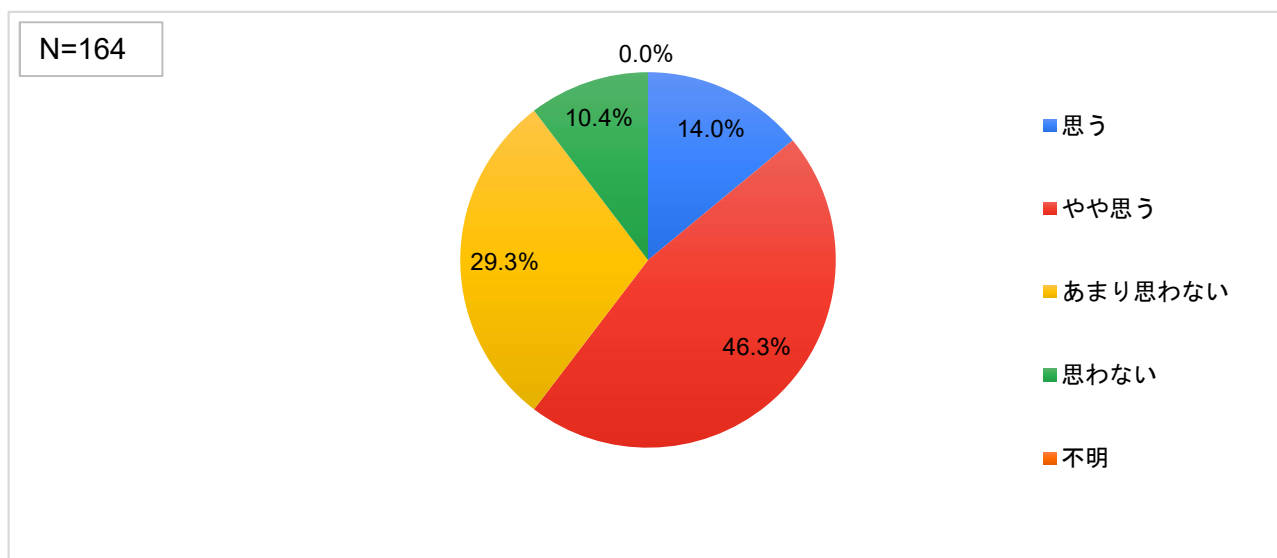


問1 (3) 関心のある文化芸術分野

文化施設利用者等を対象とした調査であることから、「日本の伝統的な文化芸術」や「商業的に成功している文化芸術」への関心が高い結果となった。一方で、「八戸地域に受け継がれてきている文化芸術」や「外国の文化芸術」など、多様な分野にも一定の関心が示されており、幅広い文化芸術への関心層が存在していることがうかがえる。

問2 文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きします。

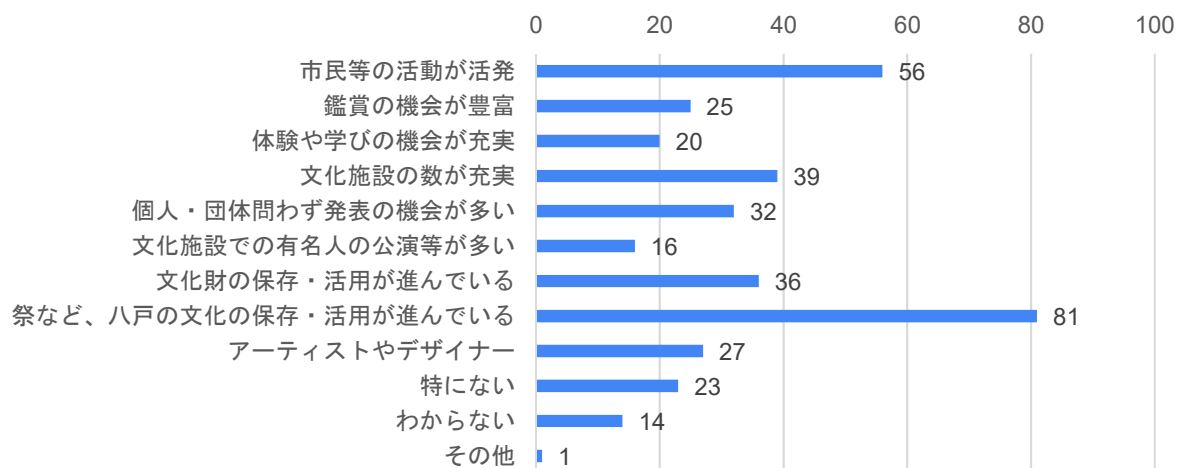
(1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思いますか？



問2(1) 八戸市は文化芸術活動が盛んな街だと思うか

「思う」「やや思う」を合わせると約6割となり、一定の評価が見られる一方、「あまり思わない」「思わない」も約4割を占めている。文化芸術活動への認識は肯定的であるものの、十分に実感されていない層も少なくないことがうかがえる。

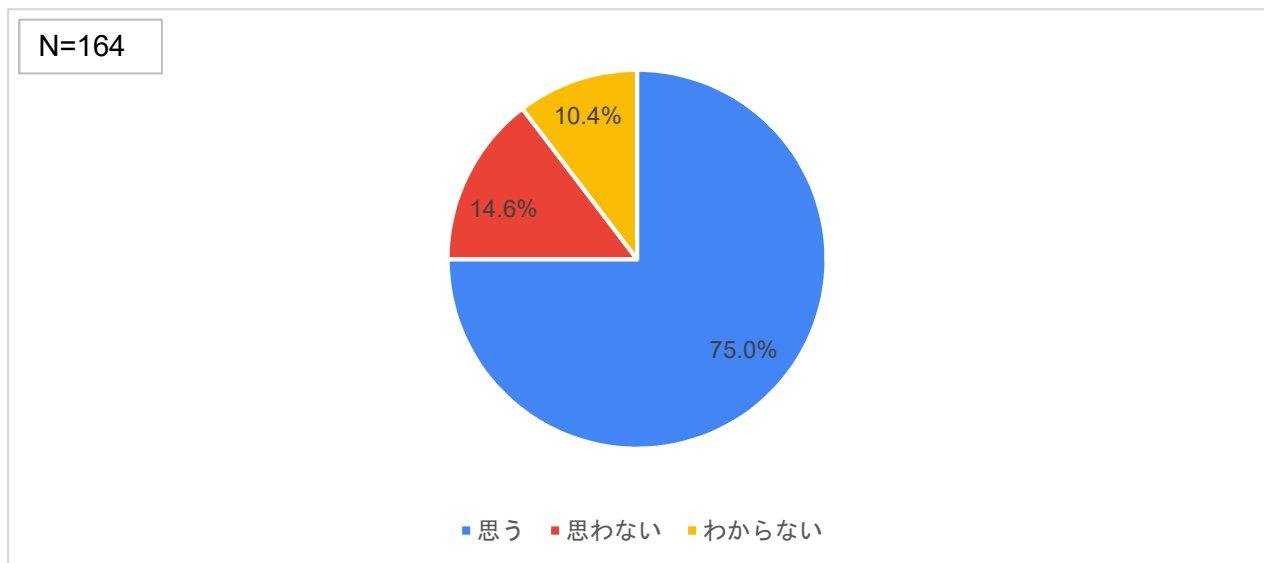
(2) 活動が充実していると思う項目は？（複数回答可）



問2(2) 活動が充実していると思う分野

「祭、芸能、工芸など八戸ならではの文化の保存・継承・活用」が最も多く選ばれており、地域固有の文化に対する評価が高い。一方で、「鑑賞の機会」「体験や学びの機会」などは比較的低く、日常的に触れる機会の充実が課題として示されている。

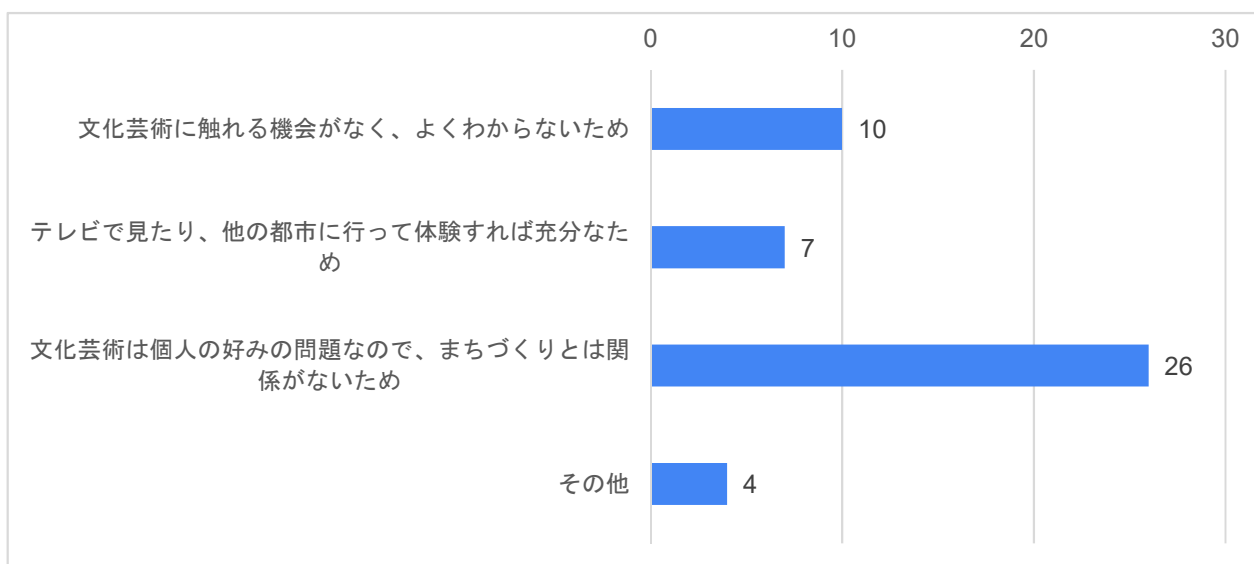
問3 文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、魅力的な街をつくることにつながるとお考えですか？



問3 文化芸術の充実と魅力あるまちづくりとの関係

「思う」と回答した人が約75%を占めており、多くの市民が文化芸術の充実が「暮らしたい・住み続けたい街づくり」につながると認識していることが分かる。

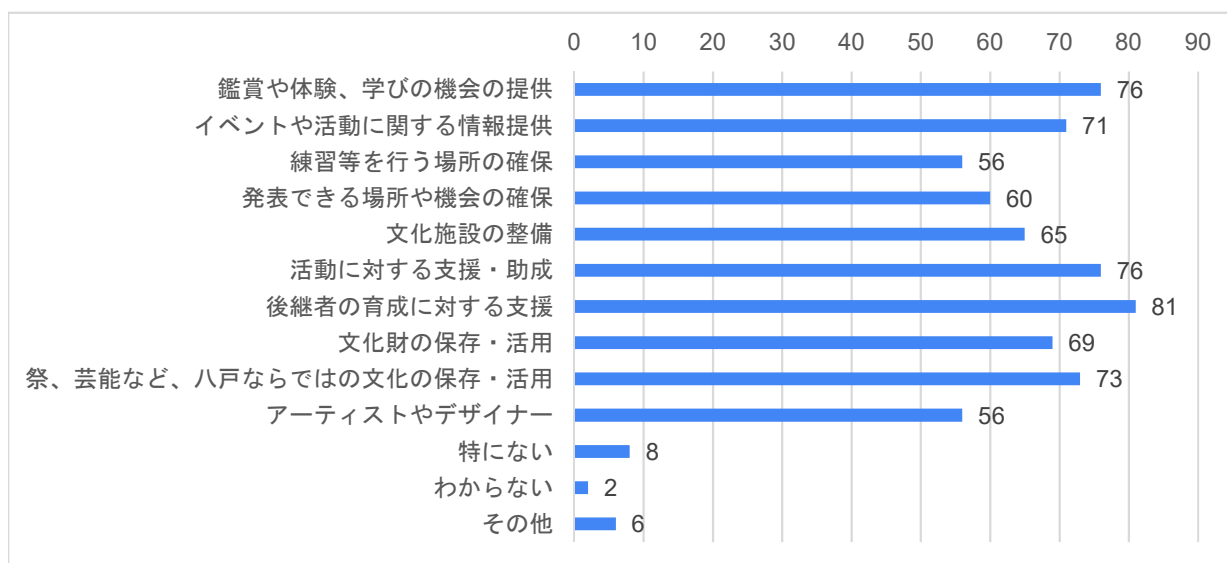
問4 問3で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。



問4 問3で「思わない」「わからない」とした理由

「文化芸術は個人の好みの問題で、まちづくりとは関係がない」との回答が最も多く、文化芸術の価値や効果が十分に共有されていない層の存在がうかがえる。一方で、「触れる機会が少なく分からない」といった理由も一定数見られ、情報発信や体験機会の重要性が示されている。

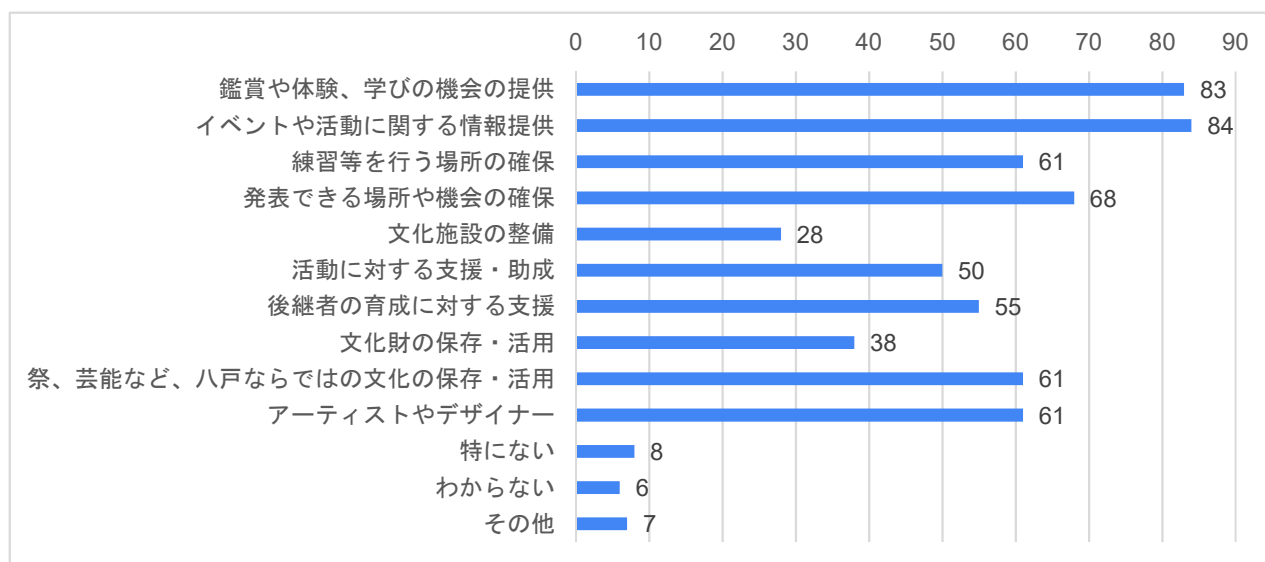
問5 文化芸術に関して、行政（県や市等）が取り組む必要があると思う分野は？
（複数回答可）



問5 行政が取り組む必要がある分野

「後継者の育成に対する支援」「活動に対する支援・助成」「鑑賞や体験、学びの機会の提供」などが高く、制度整備や人材育成といった中長期的・基盤的な役割を行政に期待する傾向が強い。また、文化財や地域文化の保存・活用についても高い関心が示されている。

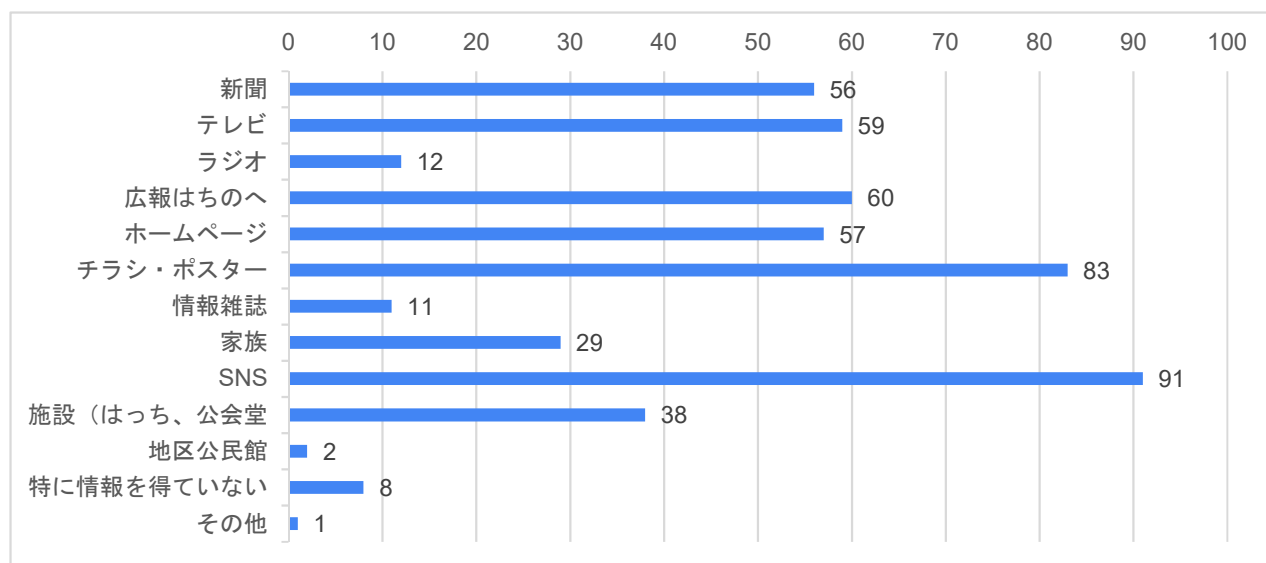
問6 文化芸術に関して、民間（企業、市民団体等）が取り組む必要があると思う項目は？（複数選択可）



問6 民間が取り組む必要がある分野

「イベントや活動に関する情報提供」「鑑賞や体験、学びの機会の提供」「発表できる場所や機会の確保」などが多く、民間には身近で実践的な活動や発信の担い手としての役割が期待されている。一方、「文化施設の整備」は低く、ハード整備は行政の役割と捉えられていることがうかがえる。

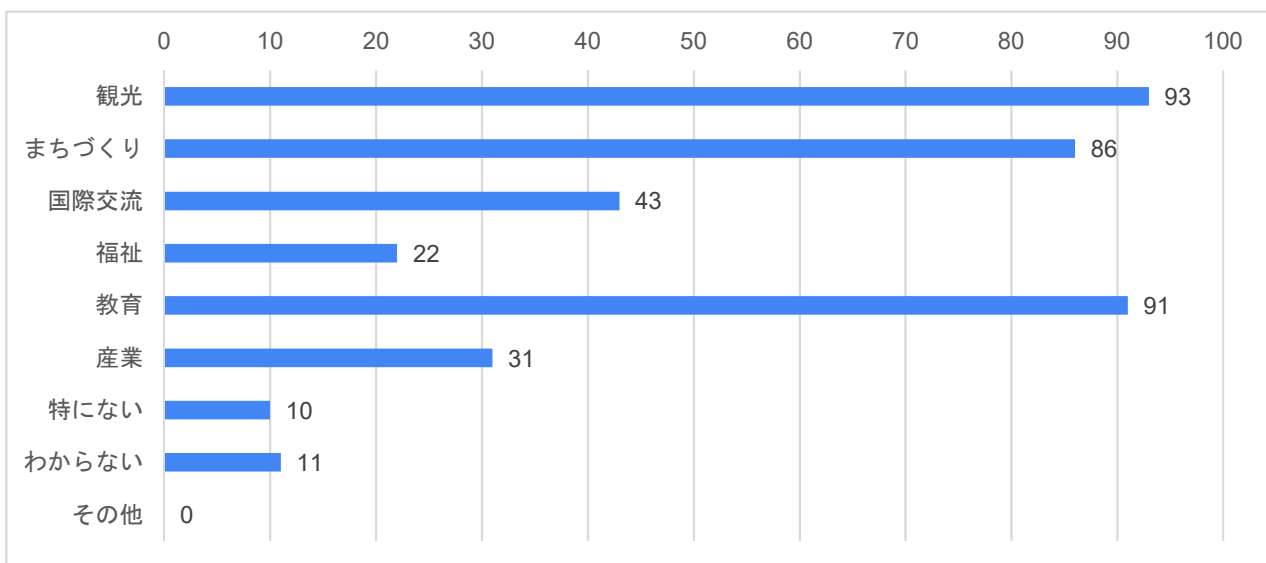
問7 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。



問7 文化芸術に関する情報入手先

SNSやチラシ・ポスターが最も多く、次いで広報紙、テレビ、ホームページが続いている。デジタルと紙媒体の双方が重要な情報源となっており、複数の手段を組み合わせた情報発信の必要性が示されている。

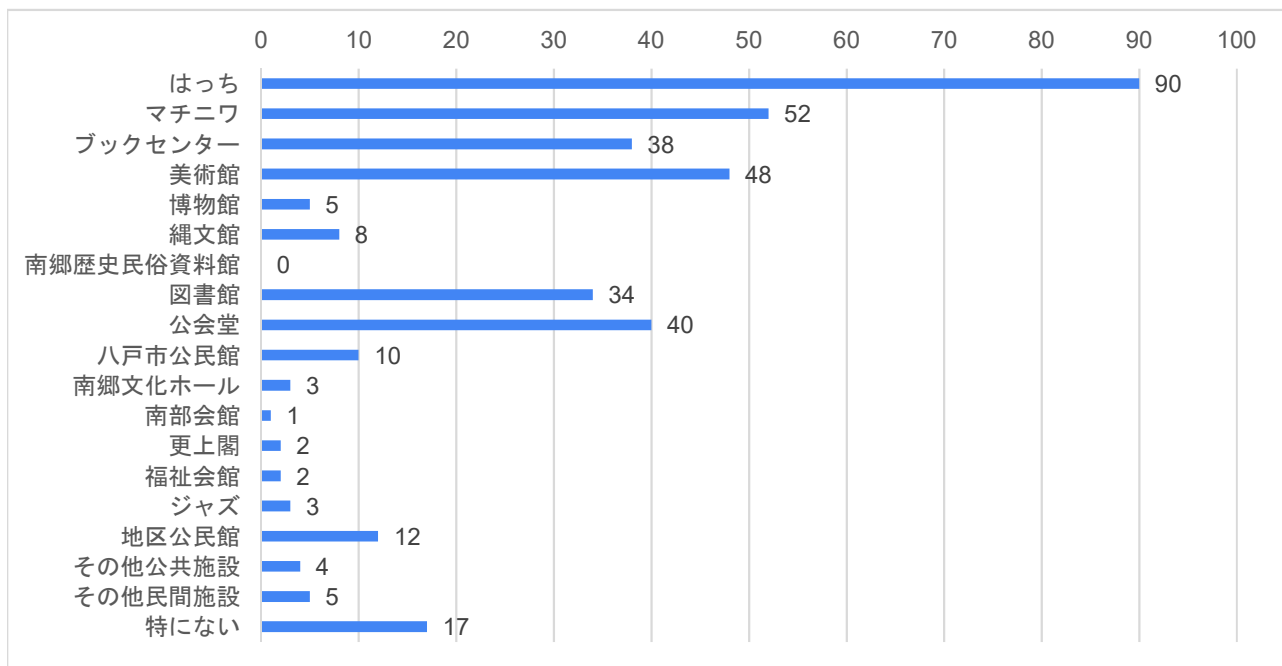
問8 文化芸術が活かされていくと良いと思う「分野」はありますか。
(複数選択可)



問8 文化芸術が活かされていくと良いと思う分野

「観光」「教育」「まちづくり」がいずれも高い割合を占めており、文化芸術を地域の魅力向上や人づくり、まちづくりに結び付けていくことへの期待が大きいことが分かる。特に、文化施設の利用者を中心とした回答であることから、鑑賞や体験にとどまらず、学びや地域づくりへと文化芸術を広げていく視点が重視されている。一方、「福祉」や「産業」は比較的少なく、分野横断的な活用については、今後の理解促進や具体的な取組の提示が求められる。

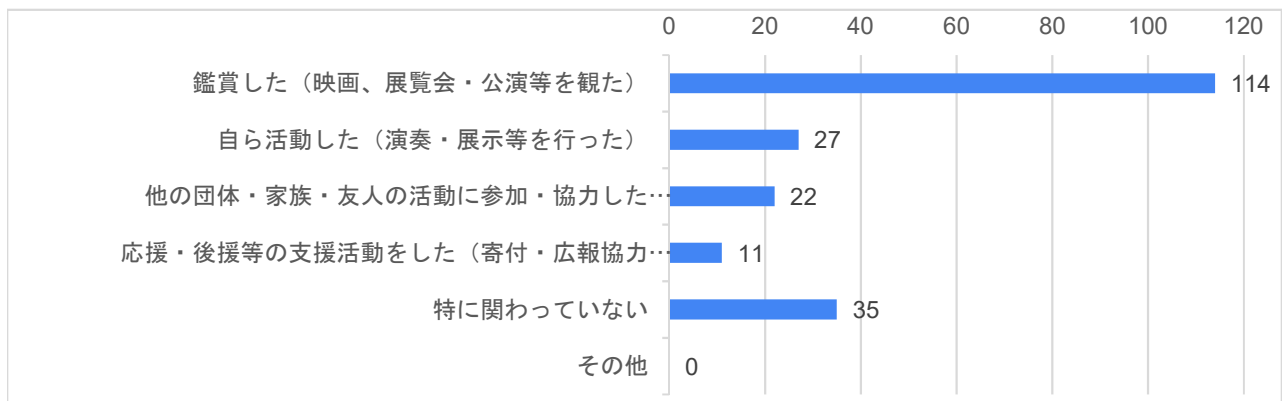
問9 普段利用することが多い文化施設をそれぞれ「3つ」まで選択してください。



問9 普段利用する文化施設

「はっち」「マチニワ」「美術館」「公会堂」など、中心市街地の文化施設の利用が多い結果となった。一方、利用経験が少ない施設も見られ、施設ごとの認知度や利用目的の違いが影響していると考えられる。

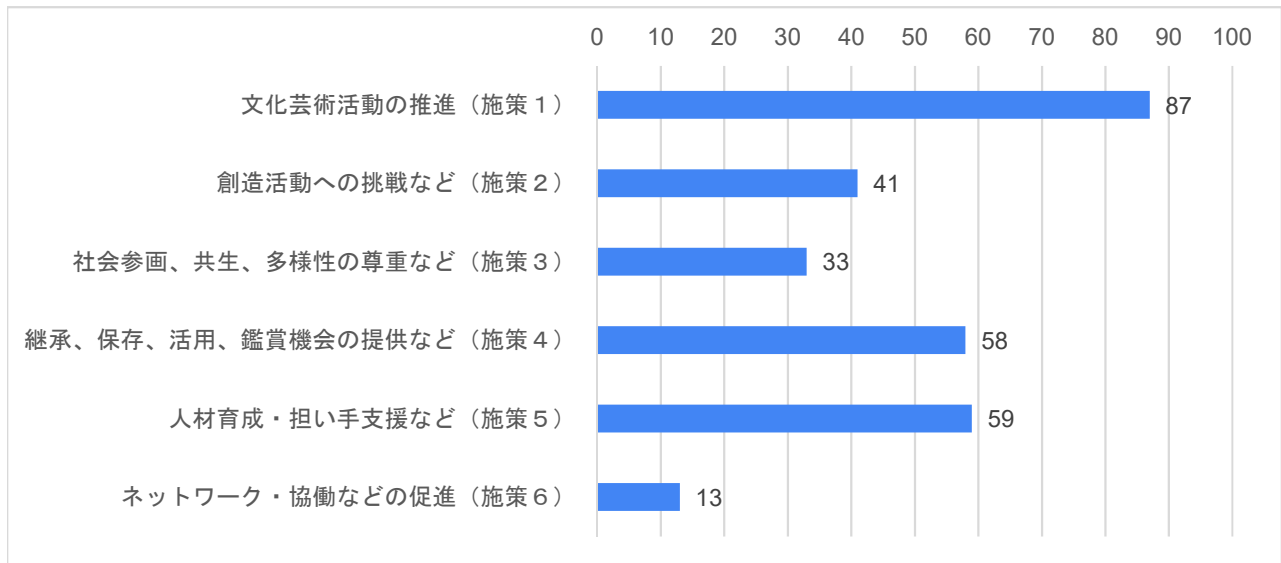
問10 過去1年間で、文化芸術にどのように関わりましたか。（複数選択可）



問10 過去1年間の文化芸術との関わり方

本調査は、文化施設の利用者や文化芸術に関心がある人を対象として実施したものであり、文化芸術に日常的に接する機会のある層の回答が中心となっている。そのため、「鑑賞した」と回答した人が最も多く、文化芸術との関わりが鑑賞を中心としている実態が明確に表れている。一方で、「自ら活動した」や「他者の活動に参加・協力した」「支援活動を行った」といった担い手・支援者としての関与は一定数にとどまっている。これは、文化施設利用者の多くが「鑑賞者」として文化芸術に関わっており、必ずしも活動主体や運営に関与する立場ではないことを反映した結果と考えられる。

問11 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択してください。



問11 今後の文化芸術政策で重視すべき方向性

「文化芸術活動の推進」「人材育成・担い手支援」「伝統文化や文化財の継承・活用」が多く選ばれており、日常的な文化芸術の充実と、それを支える人材・基盤づくりを重視する意識が強いことが分かる。一方、「ネットワーク・協働」は比較的低く、今後の施策としての認知や理解を深める余地がある。